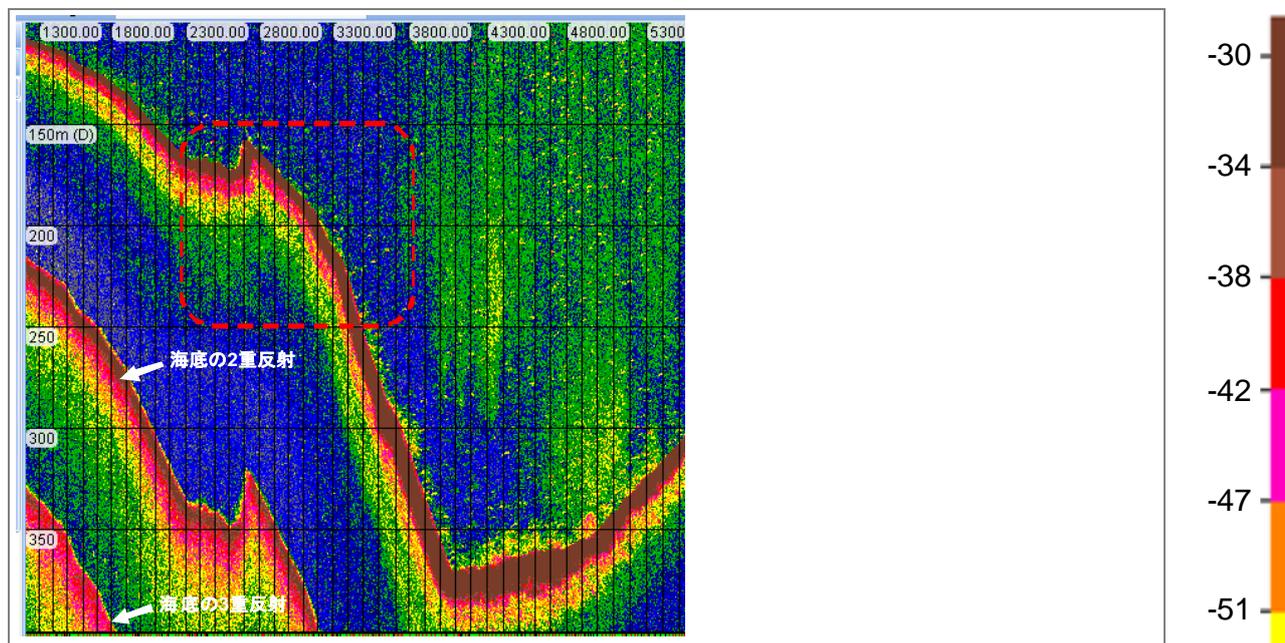


反応構成生物： タチウオ (*Trichiurus lepturus*)

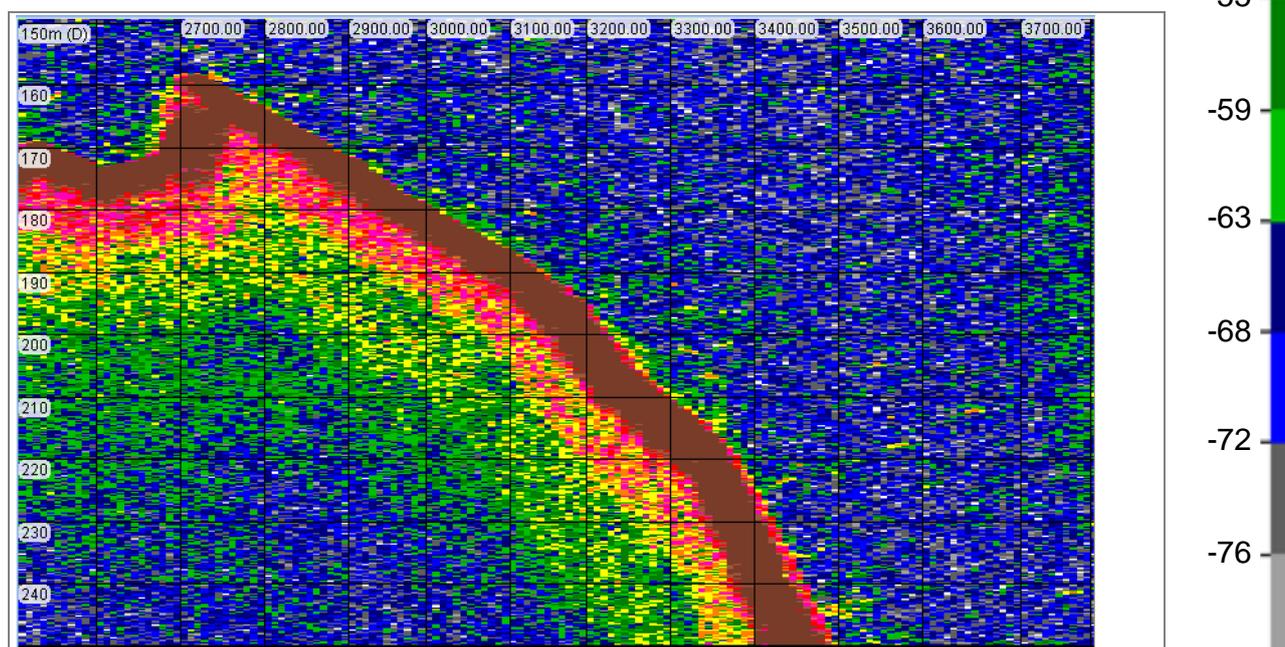
収録日時：2007年11月19日 (夜間 20:00 頃)

収録海域：太平洋，豊後水道

収録機種・周波数：KFC3000・38 kHz



Echogram-1 38 kHz



(Echogram-1 赤破線部の拡大)

Echogram-2 38 kHz

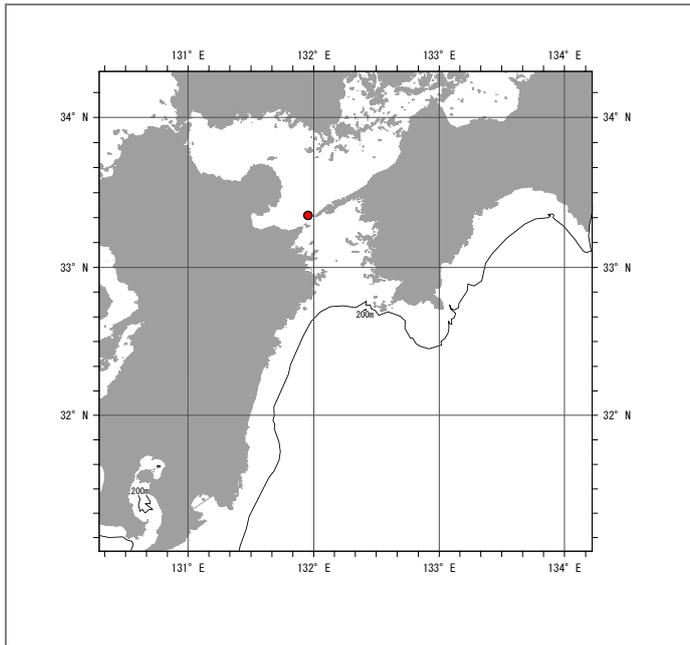
表示スケール： 縦 300 (100~400) m/横 4300 m (Echogram-1)， 縦 100 (150~250) m/横 1300 m (Echogram-2)

グリッド間隔： 縦 50 m/横 100 m (Echogram-1)， 縦 10 m/横 100 m (Echogram-2)

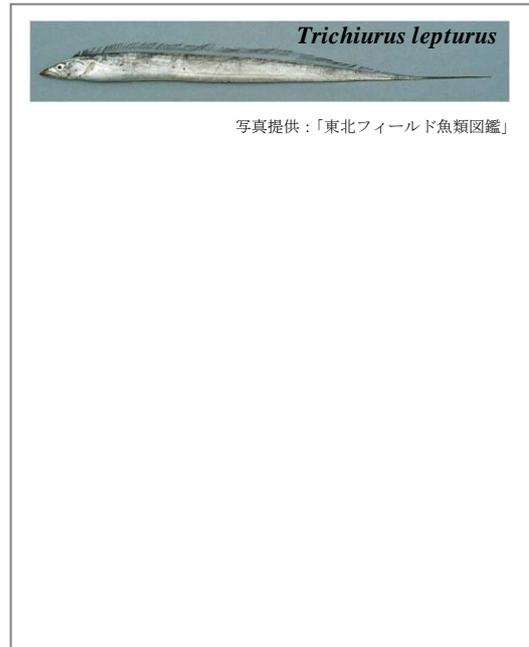
表示色・表示 S_v 範囲： EK500color ・ -80 ~ -30 dB

データ提供：大分県農林水産研究センター水産試験場 (真田康広)，豊洋

収録海域詳細↓



反応構成生物写真・イラスト↓



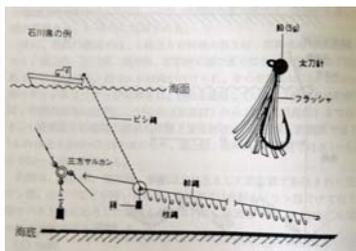
魚種確認の有無・対象生物判別の根拠

冬季の豊後水道のすり鉢上の深場（周囲の水深 90 m より水深 400 m へ落ち込む地形）には、タチウオの漁場が形成される。本エコーグラムは夜間に収集したもののだが、日中、同海域ではタチウオの曳釣漁船が操業を行っており、豊洋（大分県漁業調査船）においてもタチウオを確認していた。このことから、海底付近に点在する黄色から赤色の小規模な反応がタチウオの反応と推察される。

サンプリング詳細情報・備考

針数 50~60 ほどの曳釣漁具^{*1}によりタチウオ 17 個体、サメ類 1 個体を確認した。タチウオの平均肛門前長^{*2}は 317.2 mm であった。

^{*1} 曳釣漁具：以下参照。（「日本海中部海域産タチウオの資源管理」より抜粋）



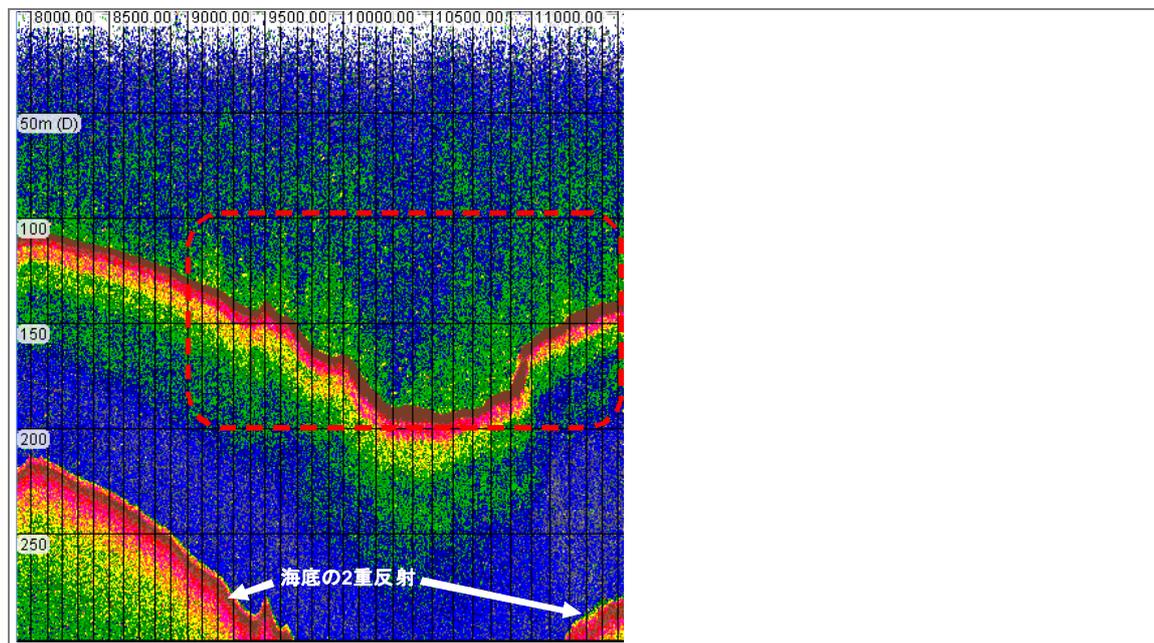
^{*2} 肛門前長：肛門より吻端までの長さ。タチウオの全長は肛門全長の約 3 倍。

反応構成生物： タチウオ (*Trichiurus lepturus*)

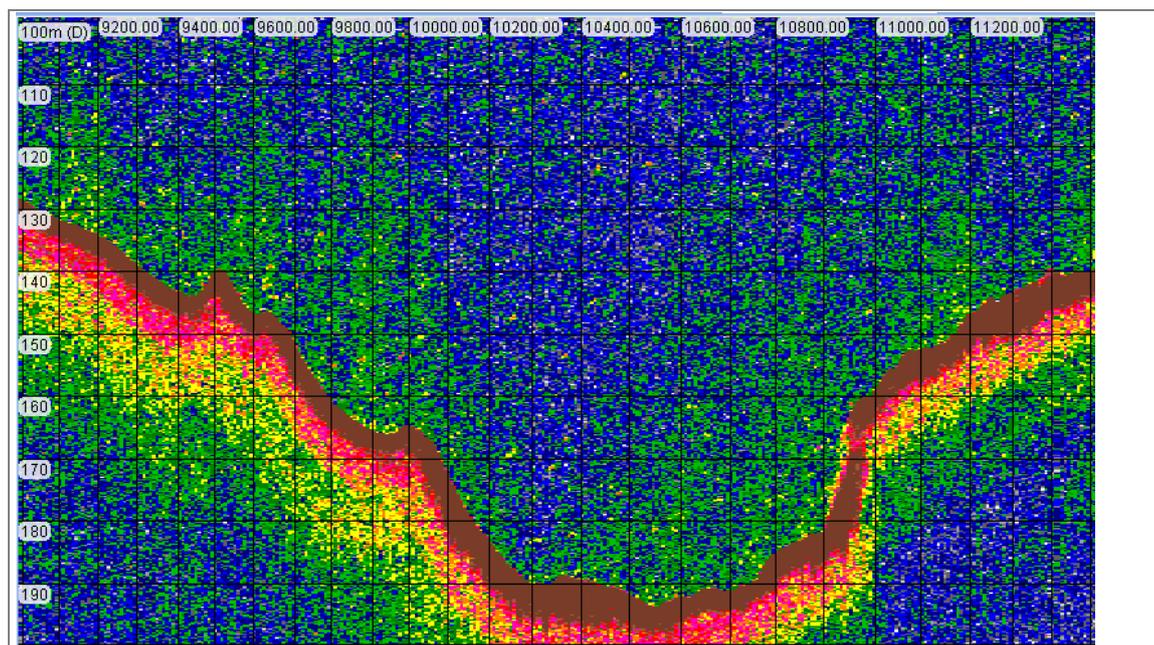
収録日時：2007年11月19日 (夜間 21:30 頃)

収録海域：太平洋，豊後水道

収録機種・周波数：KFC3000・38 kHz



Echogram-1 38 kHz



(Echogram-1 赤破線部の拡大)

Echogram-2 38 kHz

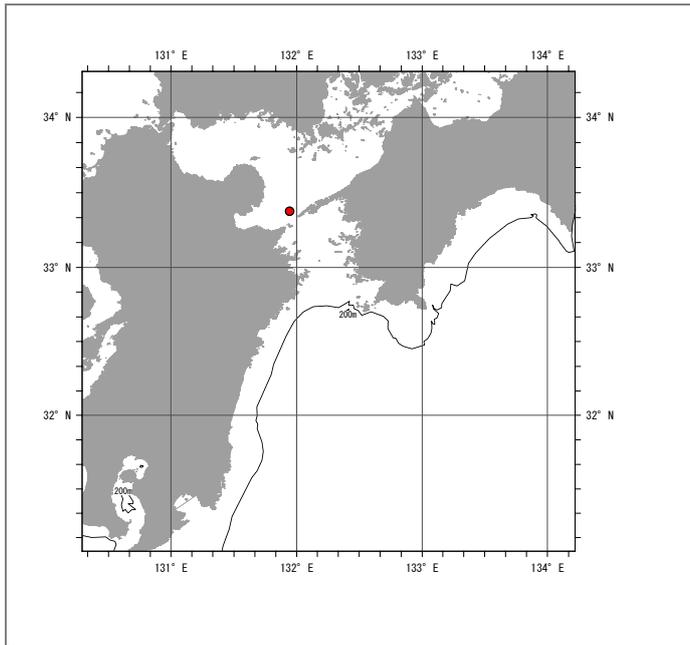
表示スケール： 縦 300 m／横 3600 m (Echogram-1)， 縦 100 (100~200) m／横 2500 m (Echogram-2)

グリッド間隔： 縦 50 m／横 100 m (Echogram-1)， 縦 10 m／横 100 m (Echogram-2)

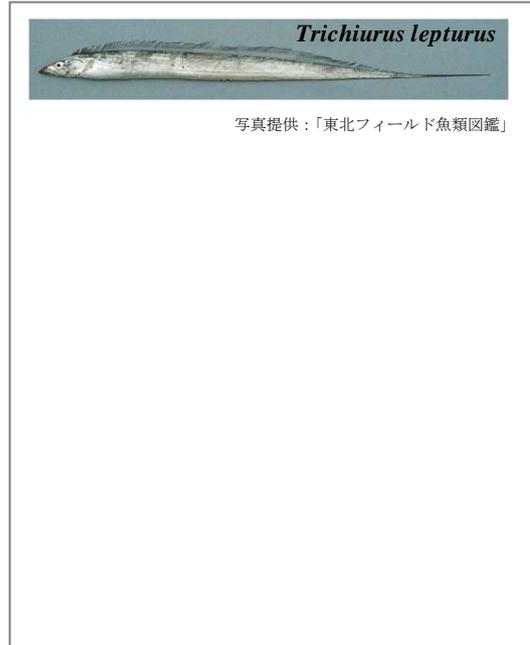
表示色・表示 S_v 範囲： EK500color ・ -80 ~ -30 dB

データ提供：大分県農林水産研究センター水産試験場 (真田康広)，豊洋

収録海域詳細↓



反応構成生物写真・イラスト↓



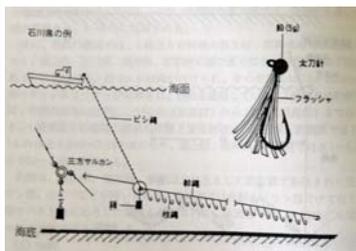
魚種確認の有無・対象生物判別の根拠

冬季の豊後水道のすり鉢上の深場（周囲の水深 90 m より水深 400 m へ落ち込む地形）には、タチウオの漁場が形成される。本エコーグラムは夜間に収集したもののだが、日中、同海域ではタチウオの曳釣漁船が操業を行っており、豊洋（大分県漁業調査船）においてもタチウオを確認していた。このことから、海底付近に点在する黄色から赤色の小規模な反応がタチウオの反応と推察される。

サンプリング詳細情報・備考

針数 50~60 ほどの曳釣漁具^{*1}によりタチウオ 20 個体、エソ類 2 個体、サバフグ 1 個体を確認した。タチウオの平均肛門前長^{*2}は 256.5 mm であった。

^{*1} 曳釣漁具：以下参照。（「日本海中部海域産タチウオの資源管理」より抜粋）



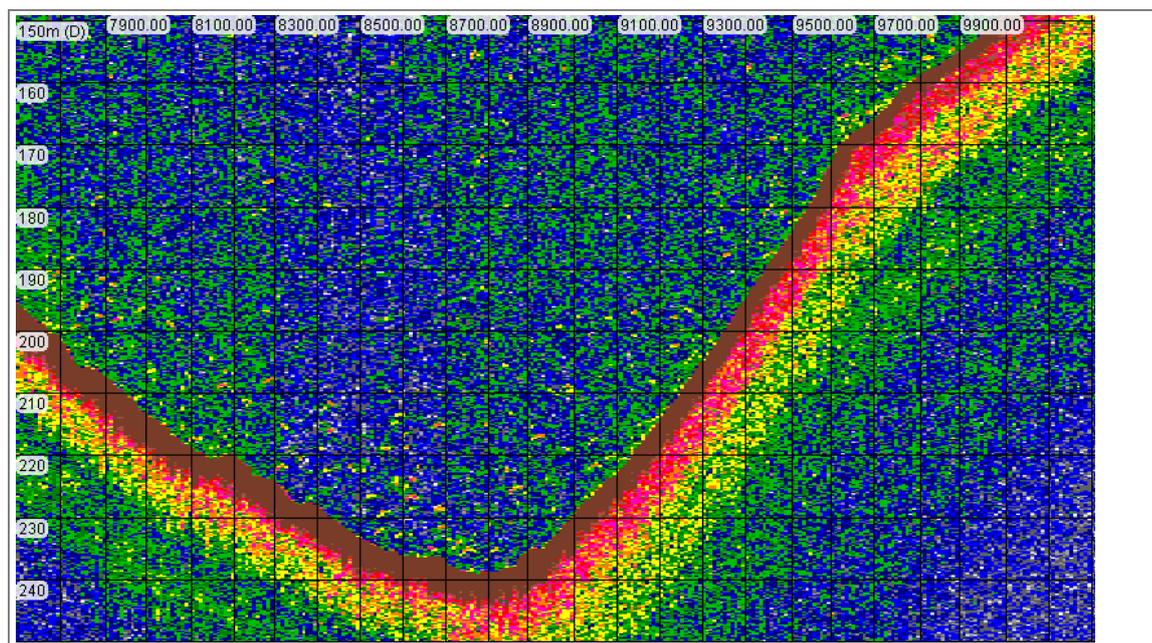
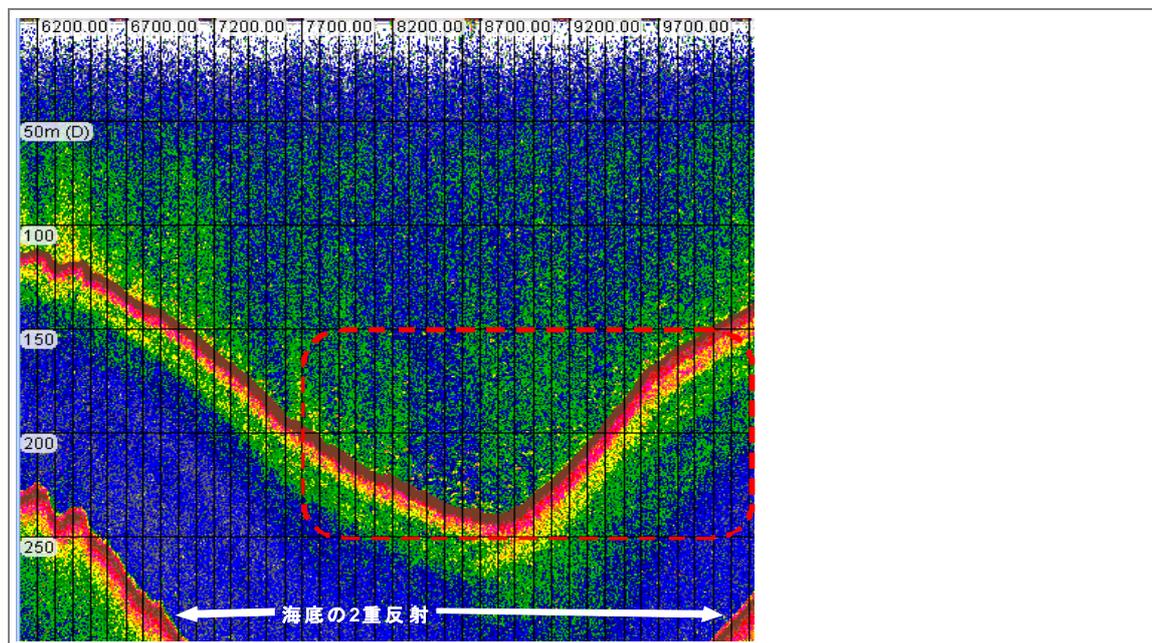
^{*2} 肛門前長：肛門より吻端までの長さ。タチウオの全長は肛門全長の約 3 倍。

反応構成生物： タチウオ (*Trichiurus lepturus*)

収録日時：2007年11月19日 (夜間 22:30 頃)

収録海域：太平洋，豊後水道

収録機種・周波数：KFC3000・38 kHz



(Echogram-1 赤破線部の拡大)

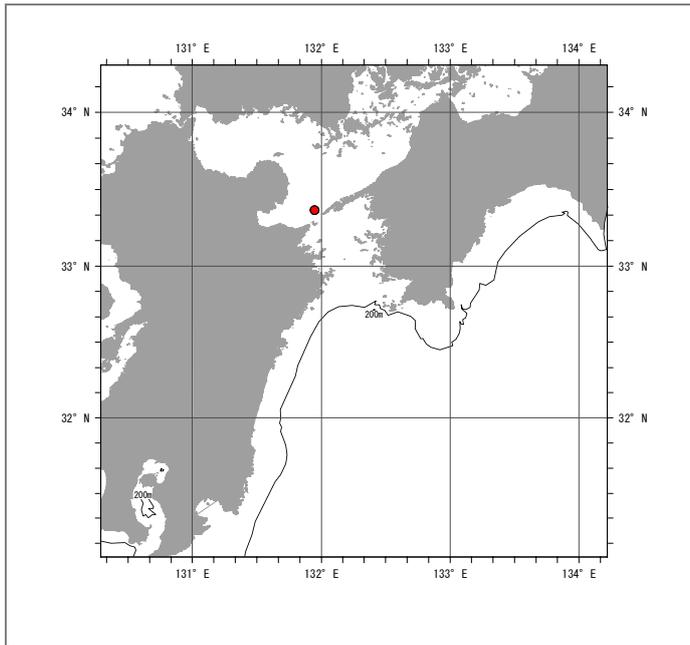
表示スケール： 縦 300 m／横 4100 m (Echogram-1)， 縦 100 (150~250) m／横 2500 m (Echogram-2)

グリッド間隔： 縦 50 m／横 100 m (Echogram-1)， 縦 10 m／横 100 m (Echogram-2)

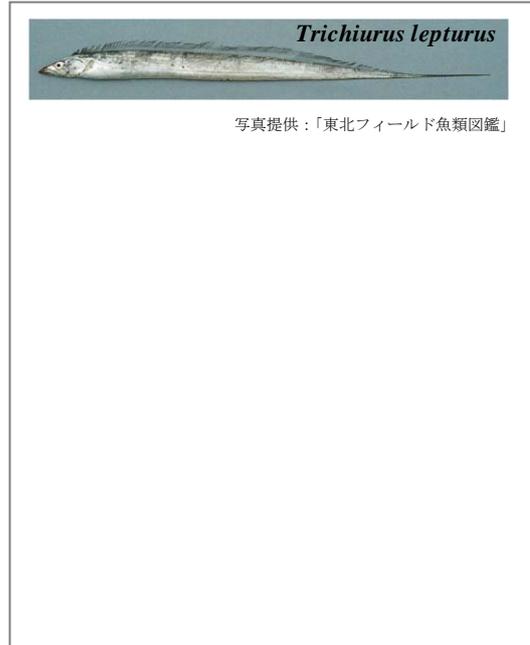
表示色・表示 S_v 範囲： EK500color ・ -80 ~ -30 dB

データ提供：大分県農林水産研究センター水産試験場 (真田康広)，豊洋

収録海域詳細↓



反応構成生物写真・イラスト↓



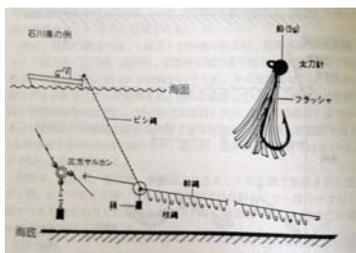
魚種確認の有無・対象生物判別の根拠

冬季の豊後水道のすり鉢上の深場（周囲の水深 90 m より水深 400 m へ落ち込む地形）には、タチウオの漁場が形成される。本エコーグラムは夜間に収集したもののだが、日中、同海域ではタチウオの曳釣漁船が操業を行っており、豊洋（大分県漁業調査船）においてもタチウオを確認していた。このことから、海底付近に点在する黄色から赤色の小規模な反応がタチウオの反応と推察される。

サンプリング詳細情報・備考

針数 50~60 ほどの曳釣漁具^{*1}によりタチウオ 26 個体を確認した。
タチウオの平均肛門前長^{*2}は 280.4 mm であった。

*1 曳釣漁具：以下参照。（「日本海中部海域産タチウオの資源管理」より抜粋）



*2 肛門前長：肛門より吻端までの長さ。タチウオの全長は肛門全長の約 3 倍。